



免疫細胞療法について

2022年11月号
編集：布谷

当院では病気やケガなどで失った臓器や組織を修復・再生させるために特定の細胞を育て治療に繋げる「再生医療」を行っています。消炎作用や腫瘍に対する治療など幅広い効果が期待されています。

人の再生医療は1970年頃から始まりました。ニュースでも度々取り上げられる「iPS細胞」など聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。動物での再生医療はまだ発展途中のさなかではありますが、とても希望のある治療だと思っています。こんな治療もあったんだ！と知って頂けるきっかけになれば嬉しいです。

今回登場する細胞たち

01

リンパ球

自ら働き体を防御し、病原体を記憶し排除する働きもっています。血液中に存在するリンパ球のうち、60~80%の割合を占めています。

02

NK細胞

ナチュラルキラー細胞は血液中に存在するリンパ球の約10~30%を占め、全身を巡回し、がん細胞やウイルスなどを見つけると直ちに攻撃する特徴があります。

03

がん細胞

正常細胞から発生した異常な細胞のかたまりです。がん細胞は、体からの命令を無視してふえ続け、周囲の大切な組織が壊れたり、本来がんの塊がない組織で増殖したりします。

「がん」治療・三大療法と併用出来る免疫細胞療法

外科療法 で「がん」を取り除く

「抗がん剤」による **化学療法**

放射線療法 による治療

免疫療法

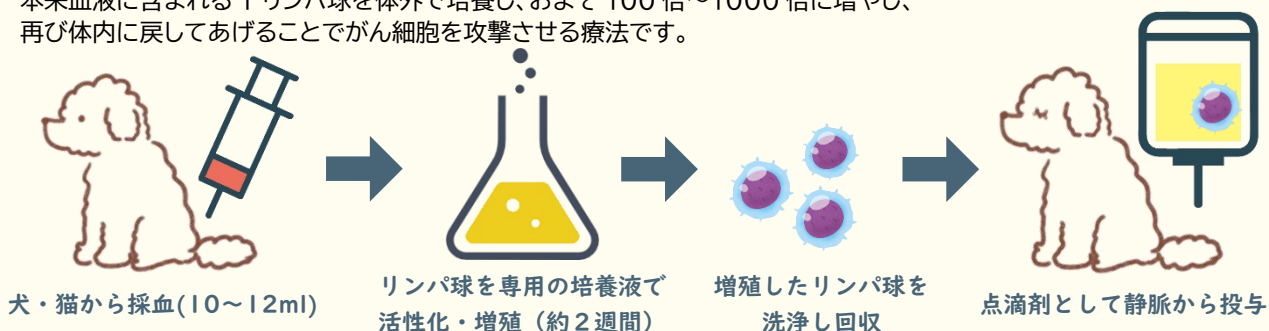
動物には病気や怪我に対して自分で治そうとする「免疫」という自然治癒力があります。主に白血球内の「リンパ球」が、身体の中に侵入した細菌やウイルス体内にできた「がん細胞」を攻撃し死滅させます。免疫細胞療法は、**生まれつき身体に備わっている免疫の力をサポートすることで、がんの発症や進行を抑える治療法**です。がん治療の新しい選択肢のひとつとなりました。当院では「**活性化リンパ球療法**」と「**キラーセル療法**」を実施しています。

メリット

- ◆ 小さながんや全身に広がったがん細胞に攻撃して、再発と転移を予防します
- ◆ 自己免疫を利用するので副作用がほとんどありません
- ◆ QOL(生活の質)の向上につながります
- ◆ 麻酔を使用しないため体力のない高齢動物でも治療が可能です

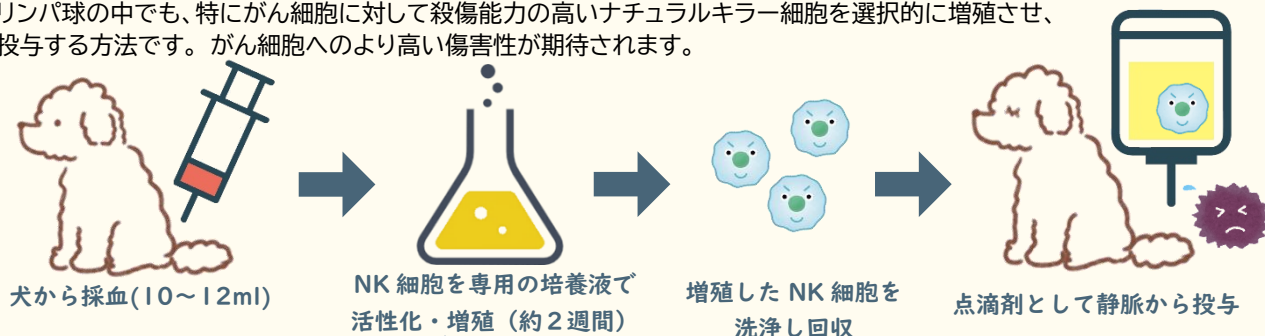
活性化リンパ球療法(犬・猫)

本来血液に含まれるTリンパ球を体外で培養し、およそ100倍~1000倍に増やし、再び体内に戻してあげることががん細胞を攻撃させる療法です。



キラーセル療法(犬)

リンパ球の中でも、特にがん細胞に対して殺傷能力の高いナチュラルキラー細胞を選択的に増殖させ、投与する方法です。がん細胞へのより高い傷害性が期待されます。



デメリット(リンパ球療法・キラーセル療法共通)

- ◆ 培養期間があるためすぐに投与出来ません
- ◆ ごく稀に培養液に反応してアレルギー症状が起ることがあります

今回は主に「がん細胞」に対する免疫療法のお話でした。

当院では他にも「炎症・組織修復」に対して効果的な**脂肪幹細胞療法**も行っています。

詳細はまた改めてご紹介します！

